

平成 21 年 7 月 30 日
A 班 第 6 グループ

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度「大学職員情報化研究講習会」参加報告書

タイトル：「縦割り組織を情報で貫く！」

《課題認識》

私たち A 班第 6 グループは、最初のディスカッションの中で、情報という観点から日ごろの業務の問題点をまず洗い出すことにした。その結果、現状の課題として、

- ・組織の縦割りによる、システムの連携不備が発生してしまっている。
- ・情報が分散してしまっており、一元化・集約化されていない。
- ・個人情報をどう扱っていくのか。

という問題があることを確認した。そしてこれらの課題を具体的な事例で検討していくことにし、その後それらの問題を解決するための提案を討議していった。

《討議内容》

討議された議論は、次の三つである。

- ①一つ目は、D 大学が抱えている「各システム間でログイン ID が異なっている」という問題である。例えば教務系システムと総務系システムで ID が異なっており、これら ID とパスワードを管理することが非常に煩雑となってしまう。また異なるシステム同士で運用されていると、一括した作業がおこなえない。
- ②二つ目は、「システムの縦割り」という問題である。これによって、例えば教員と職員で利用できるシステムが異なり、教職員間で共有すべき情報を、すぐに利用できないという問題が発生してしまう。これに関連して、T 大学では入試に関する戦略をたてるときに、教員と職員で統一された最新の情報を手に入れることができないため毎年苦勞している、ということが報告された。
- ③三つ目は、「必要性の高い個人情報へのアクセスをどうすべきか」という問題である。例えば M 大学では、人事情報が完全非公開となっており、状況に応じていちいち個別の対応が必要となってくる。それによって、特定の部局に問い合わせが殺到することになり、また毎回問い合わせなければ必要なデータが入手できないことになる。

以上をまとめると、『我々の身近な単位として、各部署間で情報が縦割りなのが現状である』という点が共通していることが判明した。

《提案内容》

そして三つの討議内容の解決策として、それぞれ次のような提案がなされた。

- ①まず、統合認証 ID を利用することが提案された。これによって、一回のログインで、複数のシステムを横断的に利用することが可能になり、管理とシステム利用の利便性を向上させることができる。次に、異なるシステムを職員により連携させることも提案された。これによって、複合的なシステムを利用する作業の利便性を上昇させることができるのではないかと考えた。実際この方法は R 大学の図書館システムで利用されており、ずいぶん利便性があがったという意見があった。
- ②「教職員用ポータルサイトの開設、利用」が提案された。これによってアクセスする情報が最新化され、アクセス箇所を集約することができ、管理も容易となる。また、「教員が必要とする事務システムの開放」も提案された。教員が必要とする情報システムのみならず、教員もアクセス可能にする。また、外部の一般サーバーに開放していない場合はセキュリティ管理を優先にしつつ、インターネット環境を解放する必要があるという意見もあった。これらの提案内容に関しては、実施している大学とそうでない大学とに分かれていた。
- ③「人事照会システムによる必要な人事データの権限付き公開」「人事情報システムとの連携」が提案された。これによって、必要な情報を使用する際に多くの手間を省くことができる。システム同士を連携する場合、夜間バッチを利用することで、人事データを利用するだけでなく、逆に人事情報システムへデータを送ることも可能となる。ただ、人事データのような個人情報、常に個人情報保護法との兼ね合いを考える必要があることに注意を向けるべきである。この問題に関しては、情報共有を重視するか、それとも個人情報の保護の問題を重視するかで、大学によって対応はずいぶん異なっていた。この問題は、人事データの共有を図る一方で、公開方法や公開のレベル、個人情報を保護する手段としてのセキュリティにも配慮する必要があることが確認された。

以上をまとめると、これらの三つの解決策は、『縦割り組織を情報で貫き、横につなげていくこと』という点で共通していることがわかった。それは情報の共有によって、「個人」「部署」「全体」の有機的なつながりを目指すものである。

今回のディスカッションで一貫して取り上げられたのは、「教員－職員」の「協働」であったと思う。しかしディスカッションを通して、システムの利用は職員が主であり、教員と職員との横のつながりによる「協働」が成り立っているのはごく一部なのが現状であることを認識した。情報は、縦割りではなく横断させてこそ「協働」が生まれる。それには、情報共有の整備を行うとともに、働くものが情報共有に対する意識を高めていかなければならない。少子化が進行している状況でこれからの大学が生き残るためには、大学の活性化を「横につなげるための情報」によって実現する必要があると強く思う。